

令和 元年 6 月 21 日現在

機関番号：24402

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2016～2018

課題番号：15KK0128

研究課題名（和文）20世紀前半インド証券取引所の機能不全と私的公的統治の失敗：未刊行史料が語ること（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Stock exchanges in colonial India and its failure in building institutional bases for smooth and efficient functioning(Fostering Joint International Research)

研究代表者

野村 親義 (NOMURA, Chikayoshi)

大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：80360212

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,200,000円

渡航期間：12ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究は、基盤研究C「20世紀前半インド証券取引所の機能不全と私的公的統治の失敗」を発展させることが目的であった。研究を通じ、研究代表者が長く行ってきたタタ鉄鋼所などの近代的製造業が、19世紀後半以降証券取引所を通じいかに長期資金を調達していたのか、また、証券取引所を通じた資金調達の限界を財閥に類似する経営代理会社を通じいかに回避していたのかを明らかにした。考察の過程で、受け入れ先であるシンガポール国立大学のメダ・クダイシャ准教授と意見交換を重ね、経営代理会社など多様な経済制度が長期資金調達などインド経営・経済の発展に果たした多様な役割に関する更なる考察の必要性が共通の課題として認識された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義：本研究は 国際的、国内的、の2点の学術的意義を有する。代表者はタタ鉄鋼所を舞台に長期資金調達動向などの論点を中心とするインド経済史・経営史に関する英文モノグラフを刊行した。また、インド経営史の主導的インド人研究者2名を世界的に著名な日本経営史学会に招待することで、インド経営史研究の進展に貢献した。日本人の経済史家・開発経済学者が中心となり執筆された、アジア・アフリカの近世以降の経済発展を論ずる英文著書にインド史担当として寄稿し、同時期同地域における日本人の見解を世界的に発信する手助けを行った。

社会的意義：現在、社会人も対象とするアジアの経営史・経済史の教科書を執筆している。

研究成果の概要（英文）：This research project promoted PI's JSPS project during 2012-2015 (Grant-in-Aid [C]:Stock exchanges in colonial India and its failure in building institutional bases for smooth and efficient functioning).Further details were clarified regarding colonial India's limited-functioning stock exchanges which emerged in the 1880s to foster long-term capital supplies to modern industrialized ventures.We also clarified that managing agencies,whose functions are similar to those of investment banks,supplemented limited-functioning stock exchanges based on their informal information networks,which included colonial India's financial magnates.

This project received support from Prof.Medha Kudaisya of National University of Singapore.In Sep. 2018,a joint session was held at the Congress of the Business History Society of Japan at Kyoto Uni. In Aug.2019, we will attend the Indian Business History Conference in Ahmedabad,India.The joint researches are undoubtedly an important result of this project.

研究分野：経済史、経営史

キーワード：証券取引所 インド 植民地 経済制度 ボンベイ 経営代理制度 長期資金 工業化

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、2012年度から2015年度にかけて、基盤研究C「20世紀前半インド証券取引所の機能不全と私的公的統治の失敗：未刊行史料が語ること」を受給していた。当該研究で研究代表者は、近代的企業の成長に不可欠な長期資金供給経路の一つである証券取引所の機能のありようを、植民地期最大の証券取引所ボンベイ証券取引所の1920年代から1930年代を舞台に、州政府公文書館保有の一次史料と経済制度論やゲーム論などの経済理論を用いて明らかにしてきた。

当該研究を通じ、研究代表者は次の4点を明らかにした。第一次大戦期のインフレと投機バブルにより、インドの証券取引所で長期資金取引を行う需給両者間に大きな情報の非対称性が生じた。1920年代初頭以降、州・中央政府が実施した各種証券取引所調査委員会は、ボンベイ証券取引所をはじめとするインドのほぼすべての証券取引所において、情報の非対称性を是正するような公的・私的なルールの制定が必要であるという議論を行ったものの、州・中央政府並びに各種証券取引所は、植民地期を通じこれら公的・私的なルールの制定に極めて消極的であった。結果、1920年代以降、インドの証券取引所では空売り・インサイダー取引等が横行し、証券取引所は事実上機能不全に陥り、そのため近代的企業は証券取引所を通じた長期資金の調達に困難を感じるようになった。そのうえで、近代的企業は証券取引所ではなく内部留保や、経営代理会社という日本の財閥に類似の持ち株会社を通じ長期資金の調達を行った。

2. 研究の目的

基盤研究Cでの成果を踏まえ、本国際共同研究は、経営代理会社が長期資金供給先企業に与えた影響を明らかにし、そのうえで長く停滞してきたインド経営史研究を活性化させる基盤を構築することを目的とした。具体的には、まず、経営代理会社と称されるインドの財閥から傘下企業への長期資金供給の実態を解明した。その上で、経営代理会社が長期資金供給を通じ傘下企業の経営に関与した意味を、傘下企業の企業統治・経営効率のありようや内部留保蓄積動向を企業レベルで解明することで明らかにした。なお、本国際共同研究が注目する経営代理会社の大半は、財閥同様特定の家族が会社経営を掌握している。その意味で、本国際共同研究は、特定家族が持ち株会社を通じ多数の企業に行使する影響のありようを考察するファミリー・ビジネス研究と同様の関心を有していた。

3. 研究の方法

本国際共同研究は、申請者が長年調査を行ってきている植民地期インド最大の経営代理会社タタ財閥同様、植民地期インドにおいてインド人財閥として広範な事業を展開してきたビルラ財閥の研究を長年行っている、シンガポール国立大学のメダ・クダイシャ准教授と共同で行われた。クダイシャ准教授は、ビルラ家が持つ豊富な一次史料を基に、ビルラ財閥の中興の祖であるG.D.ビルラの政治・経済活動のありようを解明してきた。また、近年クダイシャ准教授は、植民地期に勃興したビルラ財閥などの企業家が、独立後インド政府が採用した計画経済政策立案に際し与えた多大な影響の内実も研究対象としている。証券取引所の機能不全やインドで経営代理会社と称されるいわゆる財閥を通じた資金融資のありようが、20世紀インドの経済発展や20世紀中葉インド政府が計画経済を採用した背景に与えた影響に強い関心を有しつつ研究を行う申請者にとって、メダ・クダイシャ准教授は共同研究者として大変望ましい研究者であった。更にクダイシャ准教授は、2011年オックスフォード大学出版からインド経営史論集を出版しており、気鋭のインド経営史家として国際的に認知されている。証券取引所の機能のありようやタタ財閥傘下の企業研究を軸にインド経済史・経営史研究を行ってきた申請者にとって、クダイシャ准教授との共同研究は大変貴重な経験であった。

4. 研究成果

本国際共同研究事業の研究成果は、研究交流、学会・研究会報告、論文執筆、の3種からなる。

研究交流：研究代表者は、2017年8月から2018年7月までの滞在期間中、受入教員であるメダ・クダイシャ准教授と定期的に連絡を取り、インド経営史の有様について協議してきた。加えて当該事業期間中、クダイシャ准教授は20世紀中葉のインドの計画経済政策立案に対し主要インド人経営者が果たした役割を解明する書籍を執筆中で、当該原稿に関し研究代表者の見解を聞かれることもたびたびあった。こうした研究交流の延長線上の仕事として、研究代表者は、クダイシャ准教授主宰で2018年3月にシンガポール国立大学で開催された研究会で研究報告も行った。後述するように、クダイシャ准教授との研究交流は氏の訪日、研究代表者の訪印（予定）という形で、本国際共同研究終了後も継続中である。

なお、クダイシャ准教授のご主人ギャネシュ・クダイシャ准教授もシンガポール国立大学でインド近現代政治史を教える研究者である。研究代表者はシンガポール滞在中、研究代表者と近接分野の研究者であるギャネシュ・クダイシャ准教授とも定期的に連絡を取り、交流を図ってきた。ギャネシュ・クダイシャ准教授には2019年5月、研究代表者が所属する大阪市立大学大学院文学研究科を1週間ほど訪問していただき、3日程度の国際シンポジウムに参加していただいた。ギャネシュ・クダイシャ准教授には、2020年度も、再度大阪市立大学文学研究科で開催される国際シンポジウムにご参加いただく予定である。

学会・研究会報告：研究代表者は、2018年9月に京都大学で開催された日本経営史学会で、インド経営史の展望を協議するパネル報告を行うべく、渡航直後よりクダイシャ准教授と協議を進めてきた。幸い協議は順調に進み、研究代表者、クダイシャ准教授に加え、長くインド経営史研究を主導してきたオックスフォード大学のギーター・ピラマル博士と、タタ財閥の研究を長く続けているラジ・ワディア氏の4名で、インド経営史の今後を展望するパネル報告を行った。パネルを通じ、インド経済史・経営史の更なる発展には、企業に対する長期資金供給経路の具体的な解明が不可欠であるとのピラマル博士の発言に代表されるように、研究代表者の研究課題に対する高い関心がパネル出席者間で共有された。なお、研究代表者とクダイシャ准教授との同種の学会報告は、2019年8月インド・アーメダバードで開催予定のインド経営史会議への研究代表者・クダイシャ准教授・ピラマル博士の参加にみられるように、継続されることが決まっている。

なお、研究代表者は、本国際共同研究の研究成果の一部を、2019年3月、神戸大学で開催された日本人・インド人の開発経済学者を主体とする研究会でも報告しており、経営史・経済史研究で得られた研究成果を、近接他分野の研究者と共有することも開始している。

論文執筆：研究代表者は、当該事業期間内に、(1)インドの証券取引所の機能の有様が近代的大規模工業部門の長期資金供給に与えた影響、(2)日本とインドの工業化と政府の政策との関係、の2種の研究成果を刊行した。

(1)は、研究代表者がこれまで行ってきた、タタ鉄鋼所やボンベイ綿紡績業など近代的大規模工業部門における長期資金調達行動に関する研究と、クダイシャ准教授が主として行ってきた、これら近代的大規模工業部門に多くの資金を融資してきた在来商人との関係に関する研究を照らし合わせ、植民地期インドの工業化に在来商人が果たした資金供給面での役割に関し、考察した研究成果である。これら考察の結果は、2018年5月に刊行された研究代表者の単著 NOMURA, Chikayoshi. *The House of Tata Meets the Second Industrial Revolution: An Institutional Analysis of Tata Iron and Steel Co. in Colonial India* の3章や4章に反映されている。

(2)は、研究代表者がこれまで行ってきた、20世紀前半日本とインドの金融・財政政策に関する歴史統計を用いた比較研究を、クダイシャ准教授が行ってきた、20世紀前半のインドにおける経済政策の有様に関する歴史分析を照らし合わせ、植民地期インドの金融・財政政策を含めた経済政策の特徴について、考察した研究成果である。これら考察の成果は、2018年5月に刊行された研究代表者の単著 NOMURA, Chikayoshi. *The House of Tata Meets the Second Industrial Revolution: An Institutional Analysis of Tata Iron and Steel Co. in Colonial India* の6章や8章や、2019年2月 Springer 社から刊行された、大塚啓二郎・杉原薫編著 *Paths to the Emerging State in Asia and Africa (Emerging-Economy State and International Policy Studies)* の8章、NOMURA, Chikayoshi. 'Historical Roots of Industrialisation and the Emerging State in Colonial India' に反映されている。

5. 主な発表論文等 (研究代表者は下線)

[雑誌論文](計 1 件)

1. NOMURA, Chikayoshi. 'Historical Roots of Industrialisation and the Emerging State in Colonial India'. In Otsuka and Sugihara eds. *Paths to the Emerging State in Asia and Africa (Emerging-Economy State and International Policy Studies)*. Singapore: Springer, 2019.

[学会発表](計 2 件)

1. NOMURA, Chikayoshi. 'Industrialization in Colonial India: Comparative Perspective with Imperial Japan's Experience'. Conference title. "The Indo-Japanese Dialogue on the Issues of the Indian Economic Growth". 9 March 2019. Jointly supported by ICSSR-JSPS / Grant-in-Aid for Scientific Research (A) / TINDAS / Kanematsu Seminar / KUCSSI. Kobe Uni. Kobe: Japan.

2. NOMURA,Chikayoshi. 'Growth of Modern Business Enterprises in Colonial India and Its Backgrounds'. Session title. "The Practice of Business History Writing in India". 30 September 2018. The 54th Congress of the Business History Society of Japan. Kyoto Uni. Kyoto: Japan.

〔図書〕(計 1 件)

1. NOMURA,Chikayoshi. *The House of Tata Meets the Second Industrial Revolution: An Institutional Analysis of Tata Iron and Steel Co. in Colonial India (Studies in Economic History)*. Singapore: Springer, 2018.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

研究協力者

〔主たる渡航先の主たる海外共同研究者〕

研究協力者氏名：メダ・クダイシャ

ローマ字氏名：Medha Kudaisya

所属研究機関名：National University of Singapore

部局名：Faculty of History

職名：Associate Professor

〔その他の研究協力者〕

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。